

2031 月寒まちづくりビジョン



目 次

1	「2031月寒まちづくりビジョン」の策定について	1
2	月寒のまちと町連のあらまし	3
3	ワークショップでの主な意見	5
4	月寒のまちづくりに求められること	7
5	「2031月寒のまち」の目指す姿	9
6	まちづくりの基本方針	11
7	「2031月寒まちづくりビジョン」を進めるプロジェクト	14
8	まちづくりの推進体制	15
9	巻末資料	16

1 「2031月寒まちづくりビジョン」の策定について

ビジョン策定の目的

月寒地区町内会連合会(以下「町連」)では、これまで10年ごとに周年記念事業を行い、10年を一つの区切りとして、歴史を振り返りながらまちづくりに取り組んできました。

2021年度をもって50周年を迎え、これまでの課題を整理し、この先の10年後を見据えた月寒のまちの目指す姿とその実現のための活動方針をまとめた「2031月寒まちづくりビジョン」(以下「ビジョン」という。)を策定しました。このビジョンを地域全体で共有し、月寒のまち全体が一丸となって誰もが健康に生き生きと暮らすことができるまちづくりを目指します。

ビジョン策定のプロセス

「2031月寒まちづくりビジョン」の策定にあたっては、まちづくりの方向性を検討する町連主体の意見交換会を開催し、その結果に基づき議論のテーマを設定して地域の方々にアイデアを出してもらうワークショップを開催しました。ビジョンは、これらの意見交換会、ワークショップで出された意見やアイデアをもとに、町連で検討し策定しました。

町連主体の意見交換会

2020年(令和2年)3月24日

テーマ：月寒町連の目指す姿を考えるために、将来のまちのイメージを考える

ワークショップのテーマなどを検討

第1回ワークショップ

2020年(令和2年)10月8日

テーマ：10年後の月寒町連が目指す「まちの姿」と「実現するための取組」
(歴史を知り・学ぶまち、にぎわいと活気のあるまち)

ビジョンの取りまとめ

第2回ワークショップ

2020年(令和2年)11月27日

テーマ：10年後の月寒町連が目指す「まちの姿」と「実現するための取組」
(子育てしやすい・子どもにやさしいまち、高齢者にやさしいまち)

2031月寒まちづくりビジョン

ビジョン策定にあたって～コロナ禍でのビジョンの策定

ビジョン策定プロジェクトは、2019年(令和元年)秋から始まり2021年(令和3年)3月まで行いました。

策定にあたっては、できるだけ多くの地域の方の声を反映させるため、ワークショップを開催し、町連の役員や月寒地区の町内会役員、商店街振興組合等の団体、企業、大学等の代表者など総勢40名の方にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大の時期とも重なったことから、ワークショップの開催の際は人の間隔に注意し、ディスカッションも会場を複数用意し密接を避けるなど感染対策を徹底しながら進めました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



2 月寒のまちと町連のあらまし

月寒のまちの成り立ち

月寒のまちは、1871年(明治4年)、開拓使募集移民(岩手県)によって開拓が始まり集落が形成されました。

1873年(明治6年)には本道初の都市間道路=現在の国道36号が整備され、1896年(明治29年)に、歩兵第25連隊が配備されたことにより月寒のまちが大きく発展しました。

戦後も、豊平町の行政・商業の中心地として栄え、1974年(昭和49年)に現在の豊平区役所ができるまで区役所がありました。

1994年(平成6年)に東豊線が延伸し月寒中央駅が開設され、利便性が高まり、月寒中央駅を中心に土地の高度利用が進みました。その周辺は住宅地として発展しています。

月寒のまちの主な歴史

1873年(明治6年) 道内初の都市間道路が旧月寒村を貫通

1896年(明治29年) 歩兵第25連隊の配備

1910年(明治43年) 豊平町役場の移転により、行政・商業の中心地として発展

1961年(昭和36年) 豊平町が札幌市と合併

歩兵第25連隊の小演習場を「月寒公園」として開園した

1971年(昭和46年) 月寒体育館完成

1972年札幌冬季オリンピックでは、アイスホッケー競技に使用された

1974年(昭和49年) 豊平区役所が月寒から現在の場所へ移転

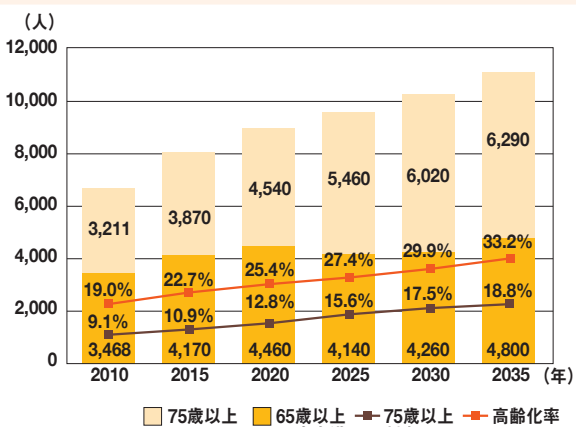
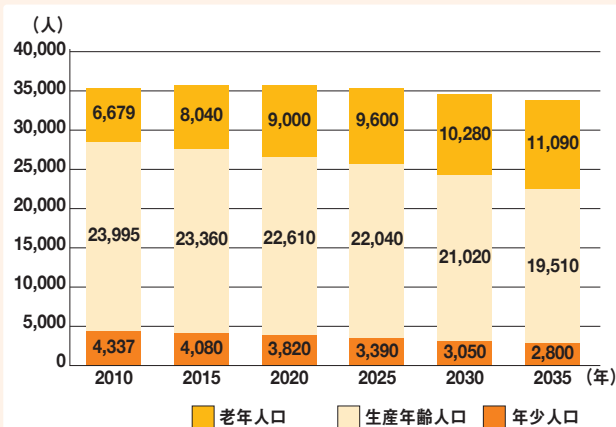
1994年(平成6年) 地下鉄東豊線の延伸により、月寒中央駅が設置

月寒地区の人口

月寒地区は、人口37,961人、世帯数21,228世帯(2021年1月1日住民基本台帳)となっています。

年代別に見ると老年人口9,124人(24.0%)、生産人口24,615人(64.8%)、年少人口4,261人(11.2%)となっており、高齢化率が比較的低い地域となっています。

しかし、今後は月寒も人口減少が想定されています(2010年国勢調査からの推計値)。さらに高齢化も進み、2031年(令和13年)には高齢化率が30%程度になることが予想されています。



月寒地区町内会連合会(町連)の概要

月寒地区町内会連合会は、1971年(昭和46年)に設立されました。

その目的は、単位町内会相互の連絡を密にして、共通の問題の研究協議をし、効率ある事業の推進により、地区住民の福祉の増進と連帯意識の高揚を図る(会則2条)としています。

77の単位町内会(2021年1月1日現在)によって構成されており、運営は11の部に分かれて行っています。

特徴的な活動

- ・人のつながりを大切にして活動をしています。
子育て支援事業やサロン事業、高齢者の見守り活動など福祉のまち推進センターによる活動や、青少年育成委員会等と連携したコンサートやカルタ大会など子ども向けの活動も盛んに行われています。
- ・歴史を大切にしまちづくり活動を行っています。
町連の組織として郷土資料館運営や展示資料の充実などの活動を行う「つきさっぷ郷土資料館運営部」があり、他の町内会連合会には見られない特徴的組織となっています。
豊平町の中心として発展してきた歴史を大切にしまちづくり活動を行っています。
- ・商店街と連携したまちづくりを進めています。
冬の祭典ホワイトジャンボフェスタなどを始め、町連と月寒中央商店街などが連携したまちなぎわい創出のイベントが行われています。

月寒地区町内会連合会の組織(11の部)

総務部：総会・役員会の総合調整や、予算・事業計画の立案、広報活動

財務部：町連会費の徴収事務や会計事務

福祉厚生部：地域福祉に関する活動や各種募金活動・福祉のまち推進センターの活動

保健衛生部：環境美化や清掃の奨励に関する活動

防災部：防災訓練などの防災に関する活動

防犯部：防犯パトロールや暴力追放などに関する啓発活動

交通安全部：児童通学路の街頭指導や交通安全運動などに関する活動

青少年部：青少年の健全育成に関する事業

女性部：福祉事業への協力、食の安全、女性の健康診断奨励や防災、防犯に関する活動

体育部：スポーツに関する活動、情報収集・提供

つきさっぷ郷土資料館運営部：郷土資料館運営や展示資料の充実の活動

3 ワークショップでの主な意見

ビジョンの策定にあたっては、「町連主体の意見交換会」と2回の「ワークショップ」を開催して課題の共有やまちづくりのアイデアなどを出してもらいました。

町連主体の意見交換会では人口減少社会における地域コミュニティのあり方について学び、月寒の魅力や目指す将来のまちのイメージを考え、今後のまちづくりの方向性を検討しました。地域の方々にもご参加いただいたワークショップでは、町連主体の意見交換会で検討された4つのまちづくりのテーマについて、より具体的に、目指す姿と実現するためのアイデアを出してもらいました。

町連主体の意見交換会での意見

人のつながりを基本にしながら、目指す姿として「高齢者にやさしいまち」、「子どもを育むまち」、「歴史を伝えるまち」、「にぎわいと活気があるまち」といった意見が出されました。

人のつながりがあるまち

- ・人のつながりが減っているので、多世代がつながっているまちになると良い
- ・趣味や関心のあるテーマで集まれる小さなコミュニティがたくさんあると良い
- ・町連が月寒の魅力を発信する情報のプラットフォームになると良い

歴史を伝えるまち

- ・月寒には歴史があるので、この歴史を守り、伝えていきたい
- ・月寒の歴史も含めた情報を集約して発信する

にぎわいと活気があるまち

- ・商店街のにぎわいをつくるのが大切である
- ・大学生のアイデアと実行力を活かす
- ・地域(町内会)ごとにもにぎわいがあるまちにする

子どもを育むまち

- ・子どものつながりが弱くなっている
- ・子どもが自由に遊べる場などにより、子ども同士のつながりが育まれるまちにする

高齢者にやさしいまち

- ・高齢者が元気なまちにする(健康寿命の長いまち)
- ・高齢者にやさしいまち、バリアフリーも進めて欲しい



意見交換で出された目指す姿



ワークショップでは、意見交換会の結果をもとに、「人」とのつながりを基本として、第1回は「歴史」や「にぎわい」、第2回は「高齢者」や「子ども」を議論のテーマにして、目指す姿や実現のためのアイデアを出してもらいました。

ワークショップで出された主な意見やアイデア

① 人とのつながりがあるまちにする(情報でもつながるまち)

- ・小さな交流の場と機会が欲しい
- ・若い世代と町内会の交流の場と機会をつくる
- ・ポータルサイトをつくり月寒のことをみんなに知ってもらいたい
- ・多様なツールで情報発信を行うと良い
- ・情報発信を若い世代の参加の機会にしてはどうか
- ・電子化・デジタル化を進め、人のつながりができると良い

② 月寒の歴史を知ることができるまちにする

- ・月寒のまちの情報を集約して発信すると良い(月寒のまちのトータルサイトなど)
- ・まち歩きイベントなどで月寒のまちを知ってもらいたい

③ にぎわいと活気のあるまちにする

- ・商店街の空き店舗などを活用してにぎわいが出ると良い
- ・現在のイベントの充実を図れると良い
- ・月寒ブランドを構築していきたい
- ・地域(町内会)ごとにも交流の場をつくり、にぎわいをつくると良い

④ 子育てしやすいまちにする

- ・子育て世代や子どもの交流を促せるようにする
- ・子育て環境が整うと良い
- ・子育て世代の集える場と機会があると良い

⑤ 高齢者にやさしいまちにする

- ・子どもと高齢者の見守りを推進していく
- ・もっと高齢者のまちづくりへの参加を促してはどうか
- ・高齢者がまちづくりで活躍できる仕組みができると良い

※その他の意見は巻末の参考資料にあります。

4 月寒のまちづくりに求められること

月寒のまちの特性(まちのあらまし)や町連の課題、ワークショップでの意見などから、今後の月寒のまちづくり及び町連に求められることを整理しました。

月寒のまちを取り巻く社会情勢

●進む高齢化

全国的に高齢化が進む中、月寒地区でも高齢化が進み、この先、高齢者世帯や単身高齢者が増加することが考えられます。このため高齢者世帯や単身高齢者の見守りやサポートなど高齢化社会に対応した地域コミュニティの運営が求められます。

●子育て世代への対応

月寒のまちは、交通利便性が高いこともあり若い世代も増えています。また、住宅地においては、住み替えとともに子育て世代が増加しつつあります。

共働きの家庭も増えているため、地域での子どもの見守りや子育て中の孤立を防ぐ支援、子どもを対象にした地域コミュニティの活動が求められます。

●多様化する暮らしとニーズ

携帯電話の普及により、情報の入手方法について、紙だけでなくSNSやインターネットの使用が当たり前になってきています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により、リモート授業やリモートワークが増加し、日中も自分が住む地域内で過ごす時間が増え、職場や自宅とは異なる居場所＝サードプレイスを求めるようになることが予想されます。

こういった、多様化するニーズに対応するため、新たなまちづくりが必要になってきます。

月寒町連の課題

●担い手不足

単位町内会と同様に、役員の高齢化による担い手不足が深刻化しており、これまでの行事の実施も難しくなっています。町連への理解や関心を高めてもらいながら、今後の運営体制などを検討することが必要になっています。

●町内会への関心の低下

賃貸住宅の増加などにより新しい住民が増え、町連や町内会がこれまで育んできた活動に対して関心が低くなっています。

町連や町内会の活動に理解を高めてもらうことや、変化しつつある住民ニーズに対応した情報発信を行ことが求められています。

●町連・町内会の役割の見直し

多様化する社会やニーズに対応して、町内会活動や運営のあり方を見直すことが必要になってきています。このため、町連と町内会の役割や運営のあり方を検討し、効果的なまちづくりを進めることが求められています。



ワークショップ

「2031月寒のまちづくり」に求められること

●月寒の歴史を知ることによる愛着と誇りの醸成

月寒は豊平町の中心として発展してきたまちの歴史があります。現在行っているまちづくりにおいても歴史を大切にしており、歴史が住民の月寒のまちに対する愛着と誇りにつながっていると言えます。

今後も月寒で暮らす子どもたちにふるさと教育などを通じて歴史を知ってもらうほか、新たに月寒に移ってきた住民にも、ホームページやまち歩きイベントなどで歴史を知ってもらい、月寒のまちへの愛着につながるようにすることが求められます。

●商店街などでのまちのにぎわい創出

月寒の商店街は国道36号沿いに発展し、かつて映画館やデパートがあり、豊平のまちのにぎわいの中心でした。

今後も月寒の中心軸である国道36号沿いの商店街エリアを中心に東西のつながりをつくり、交流とにぎわいを創出することが求められます。

また、月寒のまちは学生など若い世代が増えており、学生との連携によるまちのにぎわいの創出も求められます。

●子育て環境の充実

まちの利便性が高い月寒には、子育て世代も多く住んでおり、町連の子ども向けのイベントなどには多くの子どもが参加しています。

今後も子育てしやすい環境を整え、子育て世代が住みたいまちにし、子どもたちの声が聞こえる生き生きとしたまちにすることが求められます。

●高齢者にやさしいまちづくり

高齢化社会の中、他の地域に比べて高齢化率は低いものの、月寒のまちも高齢化が進んでいます。

今後も、高齢者の見守り、さらには高齢者の健康増進を進めることはもちろん、高齢者が活躍する場を増やし、高齢者にやさしいまちにすることが求められます。

●人のつながりの継承

月寒のまちは、歴史のなかで育まれた人のつながりが、暮らしやすいまちの基盤となっています。

新しい住民も増える中、これまで育まれてきた人のつながりを大切に、さまざまなまちづくりの課題に対応し、暮らしやすいまちにすることが求められます。

また、活動への理解と、新たな人のつながりを生むため、さらなる情報の発信が求められます。

まちづくりのテーマ

みんながいいき にぎわいある月寒のまち

～ひとのつながりで、暮らしやすいまちへ～

目指すまちの姿

月寒には大学生や若い世代、子育て世代も多く暮らしています。

2031年(令和13年)の月寒は、高齢化で増えている高齢者から若い世代、子どもまで、健康に生き生きと暮らすことができるまちを目指します。

2031月寒のまちのイメージ

月寒のまちには、かつて映画館やデパートもあり、豊平のにぎわいの中心でもありました。

そうしたまちの歴史を引き継ぎ、2031年(令和13年)の月寒のまちも商店街などに若い世代によって交流の場がつくられ地域の人々が集まり、ひとのつながりが生まれ、そこからにぎわいがつくりだされています。

また、住宅地にでも地域住民が中心になって地域の居場所(サードプレイス)などが運営され、地域住民同士の交流やにぎわいが生まれています。

子どもや若い世代から高齢者まで健康で生き生きと暮らし、人の交流によってにぎわいが生まれている月寒のまちは、人のつながりがその基になっています。

ひとのつながりによって子どもや高齢者の見守りや子育て支援、ひとり暮らしで孤独を感じている人たちのケアにつながって、暮らしやすいまちを実現しています。



2031月寒のイメージ=つきさむものがたり

月寒のまちに住む大学生



- ・大学が近いので月寒で暮らすことにしました。
- ・SNSで月寒のポータルサイトがあることを知り、商店街で面白そうなイベントがあるので参加しました。
- ・まちのさまざまな人と知り合うことができ、今は、その仲間と商店街のイベントを手伝い、ポータルサイトにアップする動画づくりをしています。

働き盛りの20代



- ・週3日は、商店街にあるコワーキングスペースで仕事をしています。
- ・異業種の知人ができて、仕事が終わった後は、交流会を開催しています。
- ・交流会には、近所に住む学生や若者、お年寄りまで幅広い世代が訪れ、月寒の昔話などが聞けておもしろいです。
- ・今度、仲間たちとまちづくりイベントを行うことを考えています。

子育て中の30代



- ・平日は共働きです。子どもは、地域が運営している子ども会に参加したことをきっかけに友達をつくっているようです。
- ・子ども会では、地域の高齢者から家庭料理や編み物、昔ながらの遊びを教わり、祖父母と会う機会が少ない子どもたちが高齢者と関われるのが楽しいようです。
- ・子ども会のスケジュールはマンションの掲示板で確認でき、参加連絡もスマホから簡単にできます。子ども会では月に1回、親の交流会もあり、ここで近所にも友人ができ、子育ての情報をやりとりしています。

自分の時間がある50代



- ・子育てが少し落ち着き自分の時間ができ、長年やりたかった音楽をやるために、商店街が運営しているサークルに参加しています。
- ・月寒の専用サイトがあり、そこからサークル活動やコミュニティ活動の情報が入手でき、参加申し込みもボタン1つでできるところが便利です。
- ・最近は、環境保全にも興味があり「まちをきれいにしてヨガをしよう」といった朝活が気に入っています。

健康を意識している70代



- ・地域のメンバーが大学と連携して行っている健康体操のサークルに通っています。
- ・サークルで多くの友人もでき楽しい日々を送っています。
- ・また、週に1日、商店街が運営するカフェのサポーターをしており、若い人たちとも話す機会が多く充実しています。

6 まちづくりの基本方針

「2031月寒のまち」の目指す姿の実現に向かって、「2031月寒のまちづくり」に求められることを踏まえ、5つの基本方針を設定しました。

月寒の5つのまちづくりの基本方針

1 歴史を知り・学び愛着と誇りをもてる まちづくり

2 にぎわいと活気のある まちづくり

3 子育てしやすい子どもにやさしい まちづくり

4 高齢者にやさしい まちづくり

5 情報でもつながる まちづくり

基本方針ごとの考え方は、以下のとおりです。

基本方針ごとに関係するワークショップで出された意見やアイデアを住民みんなが育てていく「まちづくりのタネ(ヒント)」として整理しています。

1 歴史を知り・学び愛着と誇りをもてる まちづくり

月寒は豊平町の中心として栄えた歴史があります。古くから住んでいる人はもちろん、新たに月寒に移り住んできた人もこれらの貴重な歴史を受け継ぎ共有することによって、月寒への愛着と誇りにつながるようにします。

歴史をはじめとした地域情報に住民がアクセスしやすくすることによって、地域全体で月寒のことをより良く知り、月寒の住民としての一体感や連帯感を育むことを目指します。

また、学校の取り組みに地域が積極的に協力するなどして、子どもの頃から月寒を知り・学ぶ機会をつくることで愛着と誇りを醸成するようにします。

🌱月寒のまちづくりのタネ①

- ・月寒のまちの歴史を知ることができる WEB サイトを設ける
- ・月寒の歴史と魅力を知るマップをつくり、まち歩きイベントを開催する



2 にぎわいと活気のある まちづくり

月寒にはかつてデパートや映画館があり多くの人々が訪れ、にぎわいがありました。

今後のまちづくりにおいても月寒の中心軸である商店街エリアを中心として、学生や若い世代と一緒に人々が交流する場や機会をつくり、にぎわいと活気のあるまちづくりを進めます。

また、空き家や空き施設などを活用し、住民自らが考える交流イベントやにぎわいづくりを支援することで、活動の担い手不足の解消とさらなる活気のあるまちを目指します。

🌱月寒のまちづくりのタネ②

- ・大学などと連携した商店街の空き店舗を活用したカフェなどの交流の場づくり
- ・商店街のにぎわいをつくるためのサロンやイベントの開催
- ・各地域(町内会)におけるコミュニティの場づくり



3 子育てしやすい子どもにやさしい まちづくり

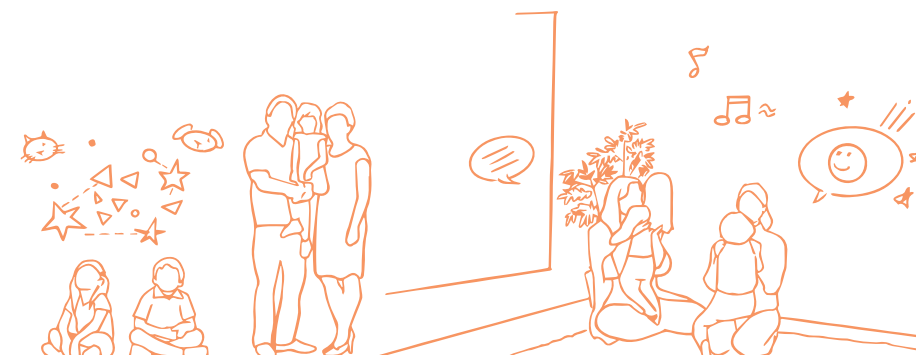
月寒には、子育て世代も多く住んでいます。これまで培われてきた人のつながりを生かし、まち全体での子どもの見守りを意識づけ、地域食堂などの子育て支援活動に協力することで、安心して子育てができるまちを目指します。

町内会などでも、多世代交流の場を設けるなどして、まち全体で子どもの成長を支えるまちになるようにします。

また、子どもを対象にした町連のイベントの充実により、月寒に住む子どもたちのふるさと意識を醸成します。

🌱月寒のまちづくりのタネ③

- ・町内会ごとの子どもの見守り体制や仕組みの構築
- ・大学などと連携したふるさと教育の実施
- ・町内会による NPO などと連携した地域食堂や子どもの交流の場づくり



7 2031月寒まちづくりビジョンを進めるプロジェクト

基本方針に基づき、町連が主体となって進めるまちづくりのためのスタートアッププロジェクトを整理しました。

月寒のまちづくりビジョンを進めるスタートアッププロジェクト

1 ホームページ(月寒ポータルサイト)の制作(基本方針①・⑤)

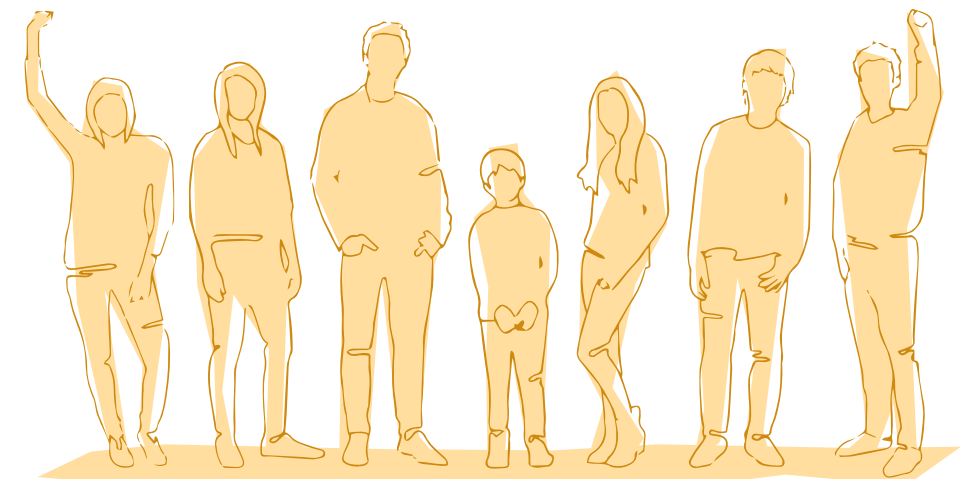
月寒のまちの情報を集約し、広く知ってもらうための入口となるホームページ(ポータルサイト)を制作します。
ホームページは、月寒のまちの魅力、イベントやまちづくり活動のお知らせ、月寒の歴史を知ってもらうサイトなどを設け、広く月寒の歴史を知ってもらうようにします。
また、Facebook(フェイスブック)やInstagram(インスタグラム)などのSNSも連動させて、広く情報を発信できるようにするとともに、新たな形で人のつながりができるようにします。
ホームページは、町連や関連機関とともに推進チームを構成し、制作・運営します。

2 子どもや若い世代の参加によるワークショップ・まちづくり活動(基本方針②・③)

子どもや若い世代の参加によるワークショップを開催し、若い世代のニーズにあったまちづくりを推進します。
これらのワークショップから生まれたまちづくりを進めることで、にぎわいや活気をつくり、子育て世代のニーズにあったまちづくりを進めます。
ワークショップで出された意見やアイデアを実践するまちづくり活動を、町連が支援し、ワークショップ参加者もまちづくり活動に参加してもらうことで、子どもや若い世代に月寒のまちに愛着を持ってもらえるようにします。

3 ひとのつながり・多様なコミュニティを育むプレゼン型まちづくり活動(基本方針②・③・④)

町連も単位町内会も担い手不足に悩んでおり、新しい活動を進めることが難しい状況にあります。一方、ワークショップでは、ひとのつながりや多様なコミュニティ活動によってにぎわいを創出する取組について、多くのアイデアや意見が出されました。
そこで、目指す姿を実現するために、さまざまなコミュニティのグループなどからまちづくり活動の提案を募集し、その提案に対して町連が支援する仕組みを作ります。これにより、多様化するニーズに対応するとともに、町内会活動の担い手育成にもつなげます。



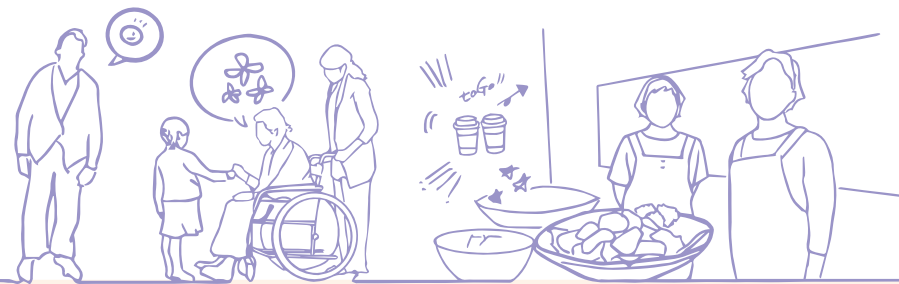
4 高齢者にやさしいまちづくり

高齢者が健康で生き生きと暮らせるように、町連や町内会などが行う子育てサロンなどの取組において、高齢者が活躍できる仕組みを整え、地域コミュニティを支えることが高齢者の生きがいにつながるようにします。

今後、月寒においても高齢化が進むことから、大学などの関連機関と連携した健康づくりのプログラムを普及させ、元気な高齢者が多いまちになるようにします。

月寒のまちづくりのタネ④

- ・大学などと連携した健康プログラムの実施
- ・高齢者が活躍できる仕組み(ボランティア登録制度など)
- ・高齢者のボランティアによる地域食堂、子育てサロン、まち歩きイベントなどの開催



5 情報でもつながるまちづくり

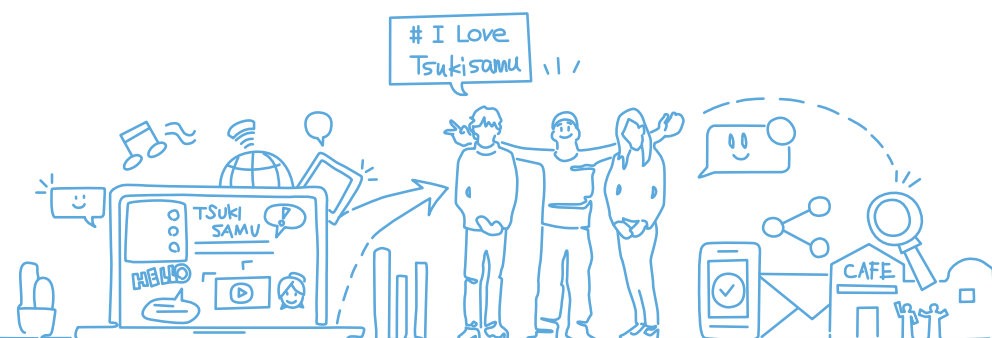
月寒のまちのポータルサイトをつくり、月寒の歴史や魅力、イベント、子育てサロンなど月寒のさまざまな情報をタイムリーに提供し、外部の人も月寒の魅力を知り、「住んでみたいまち」として認知されるよう、まちの価値を高めます。

ポータルサイトに加えてSNSなど多様な手段で情報発信を行い、各世代に広くまちの情報を伝えるときともに、学生や若い世代にも情報が届くようにし、若い世代がまちづくりに参加するきっかけとなるようにします。

また、若い世代が中心となって、オンラインミーティングやさまざまなテーマのオンラインワークショップが開催されるような支援を行い、人のつながりを大切にしてきた月寒で新しいかたちでの人のつながりをつくるようにします。

月寒のまちづくりのタネ⑤

- ・学生などが参加した月寒地区のポータルサイトの制作
- ・参加型コンテンツづくり(月寒の歴史の写真をみんなで集める、動画をつくる)
- ・AIを使ったまち案内コンシェルジュの設置
- ・YouTubeやコミュニティFMなど多様な手段による情報発信
- ・情報発信のための運営組織の構築



8 まちづくりの推進体制

「2031月寒まちづくりビジョン」は、町連が中心となり、以下のとおり進めていきます。

月寒のまちづくりの推進体制

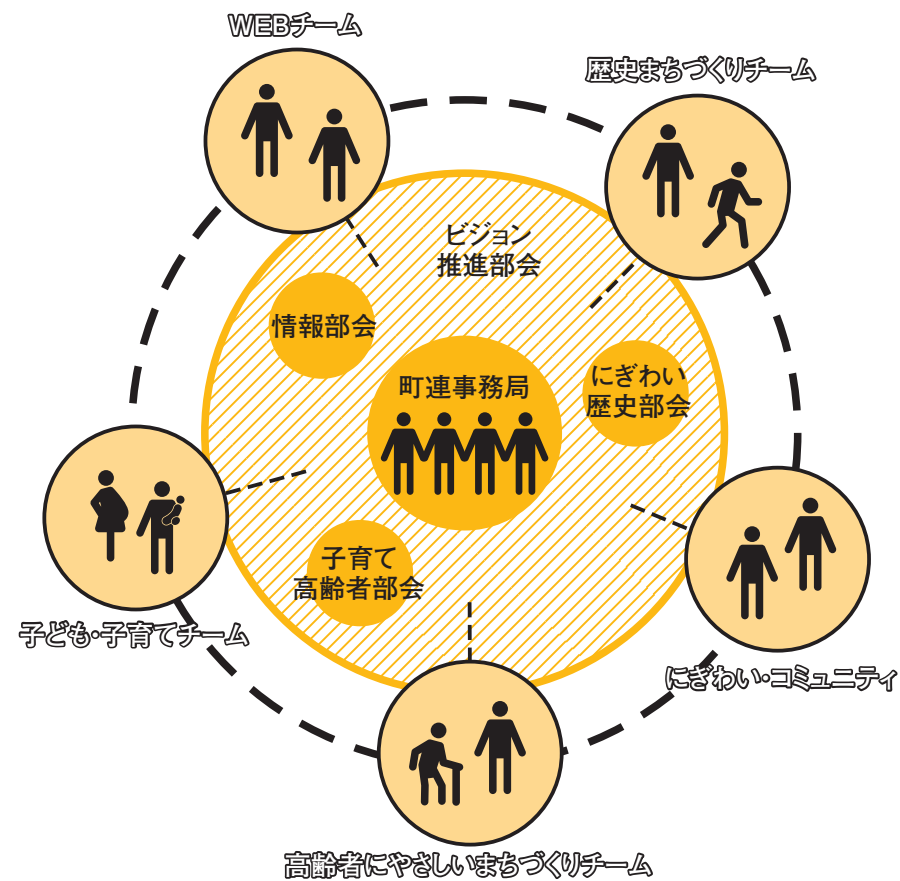
多様なチーム・団体と連携してまちづくりを推進

目指す姿を実現するためには、ビジョンに基づいたまちづくり活動のチームや団体などと協力・連携しながら進めていく必要があります。

町連では、ビジョン推進に向けた体制作りや関係機関との調整、まちづくりを進めるプロジェクトチームのコーディネートを行い、まち全体が一丸となってビジョンに向けたまちづくりを推進していきます。

また、他団体との連携を通じて、新たな担い手発掘も行います。

ビジョン推進体制イメージ



巻末資料

ワークショップで出された意見

テーマ① 月寒の歴史を知り・学び・愛着と誇りをもてるまち

●月寒の歴史を知り・伝える

- ・まちブラで月寒をめぐり月寒の歴史を伝える
- ・ウォーキングルートを書き入れた、歴史地図を作成する
- ・史跡をめぐって宝さがしができるようにする
- ・子どもたちが学校の歴史を辿り月寒の歴史を知ることができるようにする
- ・軍隊が入ってきたことがまちの始まりなので、おもしろく伝える
- ・歴史好きに合わせた活動を行う
- ・月寒神社を活用する

●月寒の情報を集め発信する

- ・月寒の身近なことを小学生が調べて発信できる場をつくる
- ・子どもたちが自分の地域の写真をHPにアップする
- ・地域の情報を載せたカレンダーをつくる
- ・情報を集めて新聞やHPをつくる
- ・「つきさっぶの少年」という歌を広めていく

●まちを歩いて月寒を知ってもらう

- ・月寒を知らない人にも好きになってもらうようにPRする
- ・スタンプラリーを行う
- ・楽しみながらフィールドをめぐる親子イベントを実施する
- ・月寒地区のマップをつくる
- ・児童、学生、高齢者の3世代が集まる場をつくる
- ・学校と連携して歴史を伝える

●施設を生かしてスポーツのまちにする

- ・オリンピックで月寒体育館ができた歴史を伝え、活用する
- ・スポーツを楽しむまちにする
- ・カーリングを体験するプログラム

テーマ② にぎわいと活気のあるまち

●商店街でのにぎわいをつくる

- ・商店街見学などで子どもたちが元気に活動できるようにする
- ・月寒商店街で子どもたちのお店や、子育て広場などを開催する
- ・楽しくお母さん方がウォーキングしてダイエットにつながりグルメ通にもなる
- ・お母さん同士のつながりを巻き込んで活動へとつなげる
- ・立体駐車場ができています
- ・地域(地元)のお店を使って地元がうるおうようにする
- ・商店街の情報を発信する
- ・月寒の地域自体をゲームにする

●現在の催事を充実させる

- ・盆踊り、ラジオ体操、運動会のスノーフェスティバル、音楽祭、敬老会などを充実させる
- ・商店にもまちづくりに協力してもらう
- ・町内会の方と小学生、中学生、高校生とが地域のゴミ拾いを行う

●月寒ブランドを充実させる

- ・大学と連携してお店や商品をつくる
- ・月寒を代表する商品をつくる
- ・ポイントが貯まる制度をつくる
- ・月寒でとれたものやスイーツを月寒のブランドにする
- ・月寒アップルパイをつくる

●大学生のアイデアと実行力を生かしてにぎわいをつくる

- ・大学同士の連携でにぎわいをつくる
- ・大学生が高齢者と一緒にお祭りに参加できるようにする
- ・高齢者への積極的な対応を行ってもらう

●地域ごとのにぎわいの創出

- ・将来は回覧板が電子化され、使い方が変わっている
- ・多世代が交流できる地域食堂を行う
- ・寺子屋(小学校低学年に勉強を教える)をつくる
- ・異世代交流イベントを行う
- ・カフェなどを町連で運営し集まる場所をつくる
- ・学校が地域住民を学校祭に招待する

ワークショップで出された意見

テーマ③ 子育てしやすい 子どもにやさしいまち

- 子育て世代や子どもたちの交流を促す
 - ・親子交流サロンや移動子育てサロンなどを行う
 - ・親子ふれあいコンサートのように、みんなに発表できる場をつくる
 - ・イクメンパパの料理教室を開催する
- 子育て世代の集える場と機会をつくる
 - ・子どもたちが集まる場所をつくる
 - ・子育てカフェで人々が集う場をつくる
 - ・「食」という共通の活動ができる子ども食堂を行い多世代が集うようにする
- 子育て環境を整える
 - ・公園が少ないのでつくる
 - ・教育環境がよく、生活の拠点となる施設が整い暮らしやすいまちであることをPRする
 - ・ふるさと教育を継続し、学校と情報交換をして子どものことを知る

テーマ④ 高齢者にやさしいまち

- 高齢者がとにかく元気なまち
 - ・高齢者が参加できる行事(場)を創出する
 - ・体を鍛える場やサロンなどを開催する
 - ・3TY 体操(月寒オリジナル体操)をみんなが知っていて、元気な方々がたくさんいるまちを目指す
 - ・公園などで365日ラジオ体操を行う
 - ・散歩コースを紹介して散歩を促す
 - ・散歩コースのベンチは高齢者(男性)などにつくってもらう
 - ・若者が高齢者向けにスマホ講座を行うなど、若者と高齢者が交流しているまちにする
 - ・子ども、学生、働き盛り世代、高齢者が一緒に月寒音頭を踊っている
 - ・バリアフリーを推進して高齢者にやさしいまちにする
- 高齢者もまちづくりで活躍するまち
 - ・男性の高齢者も活躍できる場をつくる
 - ・高齢者に地域活動へ参加してもらう
 - ・元気な男性の高齢者に町内会の役員になってもらう
 - ・月寒神社で活動を行う(歌会や骨董市などの楽しい行事等)
- 子どもや高齢者の見守り
 - ・子どもの見守りと高齢者の見守りを連携させる
 - ・学生たちが見守りに参画できるようボランティア活動で単位をもらえるよう大学と連携する
 - ・高齢者がつながりの場に踏み出す第一歩となる仕掛けをつくる
- 高齢者が活躍できる月寒ポイント制度
 - ・見守りや高齢者と一緒に活動するともらえるポイントをつくる
 - ・高齢者が活躍できるようにボランティアポイントやタイムシェアの仕組みをつくる
 - ・月寒ポイントを用いて地域食堂で使えるようにする
 - ・高齢者の健康ポイントを設けて商店街で使う
 - ・スマホでポイントがもらえる仕組みにする

テーマ⑤ 人のつながりと交流があるまち

- 【交流の場】
 - 小さな交流の場と機会をつくる
 - ・空き家や空き店舗を利用して小さな交流の場をつくる
 - ・交流の拠点を月寒中央駅に配置する
 - ・月寒中央エリアとランチ月寒の間にカフェや飲食店を設け交流の場をつくる
 - ・リモートワークができるオフィス(Wi-Fi完備)などを設ける
 - ・大学生のチャレンジジョブをつくる(学生の起業・創業支援の場)
 - ・商店街と連携してカフェ(小さな交流の場)を運営する
 - ・集える場では、図書貸しやチャレンジジョブなども開催する
 - ・クラウドファンディングを活用して資金を集め、集える場を開設する
 - 若い世代と町内会の交流の場と機会をつくる
 - ・学生が地域の人と交流できる拠点をつくる
 - ・学生など若者が町内会に参加してくれるようにする
 - ・札大でドッジボール大会を開催する
 - ・体操やカーリングイベントを計画し町内会とのつながりつくる
 - ・町連が学生や母親、高齢者のつなぎ役になる
 - ・イベントが、次の世代につながり続くものにする
- 【情報発信・SNSなどでのつながり】
 - トータルサイトをつくり月寒のことを知ってもらう
 - ・月寒のトータルサイトをつくり情報発信を行う
 - ・月寒の情報や商店街の情報を動画にして発信する
 - ・月寒のまちをPRする情報を発信することで月寒に住んでみたいと思ってもらう
 - ・居住者のニーズに応じた情報やイベント情報などが掲載された月寒全体カレンダーをつくり発信する
 - ・月寒地区全体のマップをつくりインターネットやSNSで発信する
 - ・町内の新しいお店や今あるお店のお知らせなどの情報を発信する
 - ・学校と町内会で情報や活動の連携を図り情報を発信する
 - ・小学校と連携して月寒の歴史を発信する
 - 多様なツールで情報発信を行う
 - ・お年寄りも子どもも、みんなが情報を入手しやすくする
 - ・マンション、アパート住民にこまめに情報を提供する
 - ・お店、バス停、地下鉄に地図で情報を伝える
 - ・個別に情報提供のチラシを作成する
 - ・ラジオを使って月寒の情報や歴史を紹介する
 - ・高齢者には広報やつきさっぶ新聞などの紙媒体で情報を提供する
 - 情報発信を若い世代の参加の機会にする
 - ・町連や商店街のSNSを開設して、学生に「月寒の魅力」を発信してもらう
 - ・札幌大学や高校生に参画してもらって、動画を制作する
 - ・学生視点で魅力を発信することで、月寒地区に新しく転入してきた方に月寒を知ってもらう
 - ・学生が地域の歴史や魅力を発掘して発信・受信する
 - 電子化・デジタル化を進め、つながりをつくる
 - ・回覧板をLINEにし、町内会の会議はZoom、町内会費はPayPayで支払うことができるようにする
 - ・各世代が興味を持てる情報発信を行う(スマートフォンで見ることができる)
 - ・Facebookでの情報発信を強化する
 - ・AIを活用して、まちセンなどにロボットコンシェルジュを設置する

「月寒まちづくりビジョン」ワークショップメンバー

【町連役員】

役職名	氏名
会長	池田 博
副会長	三佐川 令子
〃	山田 重孝
〃	山田 良一
〃	中鉢 聡
総務部部长	安達 準一
財務部部长	高森 高司
福祉厚生部部长	牧口 和子
保健衛生部部长	我妻 喜美廣
防犯部部长	高橋 悌介
防災部部长	山本 忠儀
交通安全部部长	室谷 和弥
青少年部部长	東 重満
体育部部长	田中 俊英
女性部部长	池田 良子
つきさつふ郷土資料館 運営部部长	秋元 靖巳

【関係団体等】

(敬称略)

役職名	氏名
札幌大学教授	小山 茂
日本医療大学事務局長	青手木 良光
月寒中央商店街振興組合専務理事	阿部 志呂美
月寒地区青少年育成委員会代表幹事	根本 奈津子
月寒地区民生・児童委員協議会副会長	松本 民雄
クリーンリバー月寒東町内会会長	品田 好三
月寒東四条十丁目町内会会長	品田 秀利
とうしん町内会会長	松浦 弘充
月寒希望ヶ丘町内会会長	島尻 利勝
月寒公園通南町内会会長	伊藤 博
札幌市豊平区第3地域包括支援センター センター長	千田 晃禎
介護予防センター月寒相談員	清水 邦江
	山口 美和
札幌日信電子株式会社担当係長	伊藤 雅人
株式会社大宮ホールー北海道製作所 代表取締役	基内 祐亮
NPO 法人ねっこぼっこのいえ代表理事	小林 真弓
市立月寒小学校 PTA 会長	齋藤 美由紀
市立月寒東小学校 PTA 副会長	八木 静花
	橘 瑠扇
札幌大学 学生	青木 里李香(1年生)
	植村 優希(1年生)
	上野 響己(1年生)
	伴田 幸宏(1年生)
日本医療大学 学生	旗本 真子(1年生)
月寒まちづくりセンター所長	澤本 敏雄



発行 月寒地区町内会連合会 2021年(令和3年)4月
協力 月寒まちづくりセンター
札幌市市民文化局市民自治推進課

